

一般区分・特別エリア区分共通 No.1(共通)					
令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)					
別添		あり			
応募概要	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽	
	応募区分	一般区分			
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能			
※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。					
文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきざいだんほうじんやまもとのうがくどう			
	制作団体名	公益財団法人 山本能楽堂			
	代表者職・氏名	代表理事・山本旭彦		団体ウェブサイトURL	
				https://www.noh-theater.com/	
	制作団体所在地	〒	540-0025	最寄駅(バス停)	谷町四丁目(大阪メロ)
		大阪府大阪市中央区徳井町1-3-6			
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です			
	ふりがな				
	公演団体名				
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL	
	公演団体所在地	〒		最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	1927年11月			
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等		
		代表理事: 山本旭彦 理事: 梅若善政、柴田仁、鳥井信吾、平岡龍人、野村明雄、立野純三、細川悦男 監事: 春好崇樹、谷岡弘邦	広く一般		
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	山本佳誌枝		
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	坂東敏夫		
本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号		
	info@noh-theater.com		0669439454		

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>【沿革】</p> <p>昭和2年4月 「山本観衛舎」を現在地に創設。</p> <p>昭和20年3月 大阪大空襲により焼失</p> <p>昭和25年4月 全国に先駆けて舞台を再建。「山本能楽堂」と名称変更。</p> <p>平成18年2月 財団法人 山本能楽会の認可を大阪府教育委員会より受ける。</p> <p>平成18年12月 文化審議会より国登録文化財の指定を受ける</p> <p>平成23年2月 内閣府より認可を受け、公益財団法人山本能楽堂に名称を変更</p> <p>【主な受賞歴】</p> <p>平成21年 パナソニック教育財団奨励賞、平成23年 第42回博報賞</p> <p>平成24年 関西元気文化圏賞特別賞、平成24年 ティファニー財団伝統文化大賞</p> <p>平成26年 国土交通大臣表彰「手作り郷土賞」、平成27年日本水大賞「未来開拓賞」</p> <p>平成28年 国際交流基金地球市民賞</p> <p>平成29年 第1回「はなやか・KANSAI魅力アップアワード」～関西インバウンド大賞受賞(近畿産業経済局)、</p> <p>平成29年 外務大臣表彰、グッドデザイン賞2017</p> <p>令和2年 グッドデザイン賞2020</p> <p>令和3年 大阪文化賞</p>	
	学校等における公演実績	<p>○これまでに全国約300校の小学校・中学校・特別支援学校で能の公演を実施。</p> <p>○大阪府内の約800 の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校で公演を実施。</p> <p>○平成23年～25年度 日本文教出版「小学社会6年上」の教科書表紙に採用される。</p> <p>令和6年度から3年間 日本文教出版「小学社会6年上」の教科書表紙に掲載。</p> <p>○平成26年度より、日本文教出版「小学社会6年上」の教科書の、「鎌倉室町時代」の学習の中の「ふりかえりシート」の作成に協力</p> <p>○平成27年度からはデジタル教科書の制作に協力し映像に出演。</p> <p>○大阪天王寺高校、大谷高校、大手前高校、私立高槻中学校、市立山滝中学校、奈良県結崎小学校、大阪市立中大江小学校、興国高等学校、大阪外語専門学校等、小学校から大学、専門学校まで多彩な公演実績。</p> <p>○修学旅行生などの能楽体験の受入（国内・海外とも）</p> <p>○韓国訪日研修団による教員、大学生、高校生の受入</p> <p>○毎年、校区内の小学校5年生を対象に、能の授業を実施しており、校区外の学校にも、その範囲が増えつつある。</p> <p style="text-align: right;">* 別添あり</p>	
	特別支援学校等における公演実績	<p>◆大阪府立富田林支援学校 半能「小鍛冶」 福岡県立直方養護学校 半能「小鍛冶」</p> <p>栃木県立足利特別支援学校 半能「羽衣」 山梨県立盲学校 半能「羽衣」</p> <p>千葉県立船橋特別支援学校 半能「羽衣」 東京都立八王子東特別支援学校</p> <p>和泉支援学校 大阪市立思斉特別支援学校 大阪市立難波特別支援学校</p> <p>大阪府立高槻支援学校 大阪府立佐野支援学校 大阪府立摂津支援学校</p> <p>大阪府立富田林支援学校 大阪府立とりかい高等支援学校 大阪府立高槻支援学校中等部</p> <p>大阪府立泉北高等支援学校 大阪府立高槻高等支援学校</p> <p>大阪府立平野支援学校 大阪府立大阪視覚北支援学校 堺市立百舌鳥支援学校</p> <p>大阪府立交野支援学校高等部 大阪府立大阪南視覚支援学校</p> <p>大阪府立生野視覚支援学校 大阪府立八尾支援学校高等部 大阪府立摂津支援学校中等部</p> <p>大阪府立寝屋川支援学校中等部 大阪府立寝屋川支援学校商学部 など</p> <p>◆特別支援学校の先生のご発案により、史上初の能楽の無料楽器演奏アプリ「OHAYASHIsensei」を開発し、能の音楽の普及につとめてきた。</p> <p>◆特別支援学校での本アプリ活用の事例が全国的に広がりつつある。 * 別添あり</p>	

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/UvgZpwgQN1M	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	なし
		PW:	なし

一般区分・特別エリア区分共通															
No.2(実演芸術)															
別添		あり													
【公演団体名										公益財団法人		山本能楽堂		】	
本公演・ワークショップの内容	対象		小学生(低学年)		○		小学生(中学年)		○						
			小学生(高学年)		○		中学生		○						
	企画名		伝統芸能と遊ぼう！～能「土蜘蛛」と狂言「柿山伏」												
	企画のねらい		<p>①子ども達が主体となつての学びの促進</p> <p>初めて伝統芸能に触れる子どもたちが、自ら興味・関心を持ち、楽しんで参加することを目的とする。日常生活と関連づけ、テンポよく構成することで、飽きずに「自分ごと」として考えられるように企画する。</p> <p>②能楽の全体像と多様性の理解</p> <p>日本の伝統芸能の根幹であり、あらゆる芸術の源泉とされる能楽について、能と狂言の両方を組み合わせて紹介する。その違いと共通点を体験的に理解し、伝統芸能の表現の豊かさや多様性を伝える。</p> <p>③「本物の能・狂言」を間近で見ることによる関心の深化</p> <p>能の中でも最もスペクタクル性が高く人気のある演目「土蜘蛛」と、教科書に掲載されている狂言「柿山伏」を上演することで、児童の関心を強く引き出し、学びの理解をさらに深める。</p>												
	演目概要・演目選択理由		<p>【能「土蜘蛛」のお話】</p> <p>源頼光が原因不明の病で寝込んでおり、侍女の胡蝶が持ってきた薬を飲んでも病はますます重くなるばかりです。ふと頼光が庭先を見ると、怪しげな僧(前シテ)が立っており、無数の蜘蛛の糸を頼光に投げかけ、襲いかかってきました。頼光は、枕元にあった名刀、膝丸を抜き払い、斬りつけました。。物音をきき駆けつけた独武者は目ざとく血痕を見つけ、怪物の行方をつきとめようと、その跡をたどると葛城山に着き、化け物の巢が現れました。これを突き崩すと、その中から土蜘蛛の精が現れ、千筋の糸を投げかけて独武者たちを苦しめ、手こずらせますが、大勢で取り囲み、ついに土蜘蛛を退治します。</p> <p>【狂言「柿山伏」のお話】</p> <p>山伏が修行から帰る途中、のどが乾き、木に登って柿を食べていました。ところが、それを柿畑の持ち主に見つかってしまいます。畑主は、からかってやろうと、柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だだと言いい、山伏はそれらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、最後には鳶は飛ぶものだ、と言われ、大怪我をしてしまい悪事がばれてしまいました。</p> <p>《能「土蜘蛛」演目選択理由》</p> <p>①能の中で最もスペクタクル性が高く、初めて能を鑑賞する子どもたちの入口として最適である。</p> <p>②開催地域によっては「化け物退治」などの独自の伝承と関連づけられ、地域史と結びつけて紹介することが可能。</p> <p>③謡は日本語特有の美しい詞章であり、能の優美な世界を想像させる。</p> <p>④また「土蜘蛛」は能を代表する人気演目であり、他の舞台芸術や美術でも広く扱われているため、将来的な芸術鑑賞の幅を広げる題材となる。</p> <p>《狂言「柿山伏」演目選択理由》</p> <p>①わかりやすい筋立てと素朴な笑いに満ち、子どもたちにとって親しみやすい。</p> <p>②カラスやサル、犬、鳥の真似をする場面があり、「模倣」という舞台芸術の基礎を自然に体験できる。</p> <p>②子どもたち自身が「物まね」を真似ることで感受性や表現力が育まれる。</p> <p>③教科書にも掲載されており、学校教育との親和性が高い。</p> <p>《両演目の組み合わせることで生れる相乗効果》</p> <p>①能「土蜘蛛」と狂言「柿山伏」は、それぞれを代表する演目であり、能と狂言の基本的な魅力を理解できる。</p> <p>②両方を鑑賞することで、両芸能の違いや特色を比較体験でき、能楽(能と狂言)全体を学ぶ機会となる。</p> <p>＊別添あり</p>												
児童・生徒の参加または体験の形態		<p>1.ワークショップにて能の中の謡を子どもたちが体得し、謡を謡うことで、能の中により感情移入ができ、能を理屈ではなく、体で理解し、楽しむことができる。必要であれば、ひらがなでわかりやすく「字幕」の掲示も可能</p> <p>2.能の楽器である囃子のリズム体験ならびにリズム遊びにより、西洋音楽とは異なる、日本古来の音楽を体感する。</p> <p>3.能と狂言の型(所作)のワークショップにより、日本の古典芸能の演劇としての基本に触れ、西洋の演劇とは違う、簡略化し昇華した演劇の表現法を自然に子供達が学ぶ。同時に、能と狂言の表現の違いも体験する。</p> <p>4.能の基本ともいべき「すり足」を子ども達が体験する事で、日本人として体の使い方を習得する。また「すり足」は、茶道や武道など他の日本文化の基本となり、「すり足」を体験する事で、その後あらゆる日本文化に興味を持つことができるよう促す。</p> <p>5. ワークショップや公演の終了後も、興味を深めることができるよう、ゲーム感覚で遊びながら能の謡や楽器演奏、能の知識が学べる3種類のアプリ、5分間の短い動画20本(「能の5分間」)、3D能面2種類(小面、般若)をフォローアップ教材として活用する。</p> <p>6.能の上演のために能舞台を設え、能舞台の案内や、帰宅後学習として3D能楽堂で能楽堂を歩くように楽しめるよう促す。</p> <p>＊別添あり</p>													
児童・生徒の参加可能人数		本公演		参加・体験人数目安		20～600人程度									
				鑑賞人数目安		20～600人程度									
本公演演目		【能と遊ぼう！ 狂言「柿山伏」と 能「土蜘蛛」】													
原作/作曲		①始まりの挨拶(能のお稽古は必ず挨拶から始まります)													
脚本		②能・狂言のお話(歴史、なりたち、能の中のそれぞれの役割分担など)													
演出/振付		③「土蜘蛛」の謡の練習													
		④狂言の説明と体験 ・全員で名のり(自己紹介)の体験、泣く・笑うの体験、狂言の型の説明													
		⑤狂言「柿山伏」の上演													
		⑥能「土蜘蛛」のお話													
		⑦能の囃子(楽器)の解説(笛、大鼓、小鼓、太鼓)													
		⑧能「土蜘蛛」の鑑賞													
		⑨質問コーナー＊子ども達のあらゆる疑問にお答えします。													
		⑩終わりの挨拶													
		【演目】能「土蜘蛛」/作者不明 素材・「平家物語」剣の巻 狂言「柿山伏」 /本狂言の中の鬼山伏狂言 ＊別添あり													
		公演時間		90		分									

	出演者	○シテ方 山本章弘、杉浦豊彦、吉井基晴、大西礼久、梅若基徳、今村一夫、井戸良祐(以上 重要無形文化財総合指定保持者)、前田和子、武田崇史、藤井丈雄、笠田祐樹、山本麗晃 (うちシテ・ツレ 3名、地謡 5名、後見 2名、ハタラキ1名) 計11名 ○ワキ方 原大、有松遼一、原陸、岡充、福王知登、喜多雅人、矢野昌平など 計 2名 ○狂言方 善竹隆司、善竹隆平、上吉川徹、茂山千之丞、鈴木実(大蔵流) または野村太一郎 、月崎晴夫(和泉流)等 計 3名 ○囃子方笛、大鼓、小鼓、太鼓:槌矢 亮、守家由訓、古田知英、井上敬介、中田弘美(以上重要無形文化財総合指定保持者)、斉藤敦、林大和、など) 計 4名							
	演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度／名	■山本章弘/観世流能楽師シテ方。重要無形文化財総合指定保持者。故観世流二十五世観世左近、二十六世観世宗家観世清和に師事。公益財団法人能楽協会理事、公益財団法人山本能楽堂代表理事。初舞台は三歳。関西大学文学部卒業。山本能楽堂を中心に「現代に生きる魅力的な芸能」として能の普及と継承につとめる。大阪文化賞、外務大臣表彰、博報賞など受賞多数。 ■杉浦豊彦(予定)/観世流能楽師シテ方。重要無形文化財総合指定保持者。故観世流二十五世観世左近、二十六世観世宗家観世清和に師事。「道成寺」「翁」「卒都婆小町」など 240番の演能を果たす。祖母は京舞井上流 人間国宝 四世井上八千代。 ■守家由訓(予定)/観世流大鼓方(宗家預り) 重要無形文化財保持者(総合認定) 一般社団法人阪神能楽囃子連盟調和会代表理事 公益社団法人能楽協会・大阪支部 教育特別委員。大阪能楽養成会講師。							
	本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 19 名 スタッフ: 2 名 合 計: 21 名		運搬		積載量: t 車 長: m 台 数: 大型バス1 台			
	本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール)の目安	前日仕込		無		前日仕込所要時間			時間程度
		到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出	
		11:30	11時30分から12時30分		13時40分～15時20分	10分	15時20分～16時10分	16時10分	
		※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
	本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。	6月		7月		8月		9月	
		10日		10日		10日		10日	
10月		11月		12月		1月			
8日		8日		10日		10日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		76日			

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡易図面」を記載し



(図1)
体育館舞台上に立体的な老松を設置し、いつもの体育館を、瞬時に能の舞台に変えて事業を実施します。
(30分程度で設営でき、撤収も30分以内に終わります)。これまで、他の事業も含め、全国で1000校近い学校で事業を実施しましたが、能の上演にはあまり大きなスペースが必要ではないため、ほとんどの学校の体育館の舞台で公演を実施しました。
舞台設置に必要な面積 約4 m × 8 m



(図2・3)
子ども達が、興味関心を持ちやすいように、約5分間ごとに新しい話題を提供し、クイズ形式なども取り入れて、持続的に興味・関心が持てるよう導きながら、能に対する基礎知識を説明する。楽器の演奏並びにそれぞれの楽器の説明もおこなう。



(図4・5)
狂言についての説明をおこなう。
狂言の「型」、泣く、笑うや「名乗り」などをその場で実際にやってみる。「柿山伏」についての解説を行った後、狂言「柿山伏」を鑑賞する。



(図6・7)
能「土蜘蛛」についての解説を行った後、能「土蜘蛛」を鑑賞する。最後の部分は、子供たちが一緒に謡う（または口ずさむ）。最後に子供たちからの質問に答える時間を十分に撮り、あらゆる疑問に答える。挨拶で終わる。

著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否			該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名			許諾確認状況	

別添	あり
----	----

【公演団体名 公益財団法人 山本能楽堂 】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	1.ユーモアを交え、楽しく、わかりやすく、自然な形で能全般に対する知識を持てるよう興味を促す。 2.能の基幹をなす謡(うたい)を、観世宗家の許可を得て独自に開発したオリジナルテキストを用いて、子ども達が能の謡を体得できるよう指導する。ゲームで学べるアプリも副教材として使用する。 3.校歌を謡にすることで、能のリズムを子ども達が楽しく、自然に体得することができる。 4.日本の伝統工芸の粋である「本物の伝統工芸」に触れ、その魅力を知ることができるよう導く。 5.能装束の着付けを先生や生徒に行うことで、能に対する親近感をうみ、関心を高める。 6.生徒からの様々な質問に答え、ふりかえりを行うことで、本公演への期待を高める。 *別添あり		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10人から600人程度
	ワークショップ実施形態及び内容	標準90分 ①始まりの挨拶<5分> ・体育館または多目的室などに集まった子ども達の前に、「着物(和服)」を着た、能楽師(シテ方)が登場し、まずは、大きな声で、生徒の皆さんにご挨拶をします。お辞儀の仕方なども指導します。 *子ども達は少しお互いに距離をあけて、座っていただきます。(学校側の指導に従います) ②能と狂言についてのお話 <10分> ・能の狂言について、その歴史から、わかりやすく説明をします。子ども達の学年に応じて、高学年、中学生であれば歴史の授業と連動させた内容でお話します。 ③能面の説明(小飛出、小面、若女、深井、姥、泥眼、般若、しかみなど) <10分> ・能面を6種類用意して、その違いを説明します。特に、能の代表的な能面である小面(こおもて)を中心に、若女、深井、姥など、女性の年齢によって能面が変化して表現されることや、泥岩、般若など、精神状態やその内面が、約650年前からどのように表現されてきたかを、現代社会と対峙させて説明をします。女性の鬼と男性の鬼の違いも説明します。さらに、能面のわずかな傾きで、様々な感情が表現され、表情が変わることを子ども達に実感してもらいます。 *能面はあらかじめ専用のカバンにいれて用意してすぐに取り出せるよう準備をしておきます。また、後ろの方の子ども達も見ることができるよう補助者の能楽師が、能面を持って、子ども達の近くまで持っていくます。 ④学校の校歌を「謡(うたい)」でうたおう！ <5分> ・あらかじめ、学校の先生から教えてもらった学校の校歌を、「謡(うたい)」でうたいます。効果は七五調で作られていることが多いため、「謡」でうたうことができます。 ⑤能「土蜘蛛」についてのお話<10分> ・「土蜘蛛」のお話について説明をします。開催地域の「化け物退治」の伝承など地域史と結び付けて説明をおこない、子ども達の興味を引き出します。 ⑥能の謡の体験<10分> ・「謡」について興味が出たところで「土蜘蛛」の謡をみんなで練習します。観世御宗家から許可を得て作成しているオリジナルのテキストを使用します。テキストには子ども達が興味を持てるようマメ知識も掲載しています ⑦すり足体験と能の「型」について <10分> ・体を使って、その場ですり足や、能の「型」を体験し、能の身体表現について学びます。 ⑧能装束の説明と着付<15分> ・学校の先生に能衣装を着けさせていただき、能姿になって頂きます。 *先生とは事前に打ち合わせを行い、先生の足のサイズの足袋を用意し、先に履いていただきます。 *身近な学校の先生が「能姿」に変身する事で、子ども達の興味が倍増し、楽しんで学べます。 ⑨質問コーナー <10分> ・子ども達の素朴な疑問から、ありとあらゆる質問に答えます。 *大変大切にしている時間なので、少し長い時間を取らせて頂いています。 ⑩終わりの挨拶<5分> ・本公演への期待が膨らむよう、子ども達に内容について紹介し、元気よく終わりの挨拶をします。 *休憩が必要な場合は、学校の先生に相談して、10分程度の休憩時間をもうけます。 *別添あり		
	その他ワークショップに関する特記事項等	*興味を持った子供たちが、より深く学び、興味・関心を持続できるよう、当財団がオリジナルで開発した5種類の能楽を楽しむ学習アプリ、デジタル教材(3D能面、3D能楽堂)、能の5分間動画などを学校の先生に相談して、紹介します。 *すべて無料で誰でもダウンロードができ、アプリによっては、日英のバイリンガル対応になっていますので、海外から編入してくるなどして、日本語よりも、まだ英語の方が特異な子ども達も、無理なく日本文化を学ぶことができます。 *別添あり		

別添	なし
----	----

【公演団体名

公益財団法人 山本能楽堂

】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件	(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
	会場の設置階の制限		2F以上応相談		主幹引き込み電源容量		15 A以上	
	舞台設置面積		間口	6 m	奥行	5 m		
			高さ	3 m				
	舞台設置場所		フロア対応	可	学校のステージでの対応		可	
	搬入間口の広さ		幅	3 m	高さ	2 m		
	遮光の要否		不要		緞帳の要否		必ず必要	
	ピアノの使用について		使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			
					ピアノを使用しない場合の移動の要否		要	
	搬入車両(トラック等)の横づけ		必須		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		30 m以内	
	搬入車両の種類				台数	1 台		
	搬入車両の大きさ		車幅	2.5 m	車長	9 m		
備考		大型バスでの来校						

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

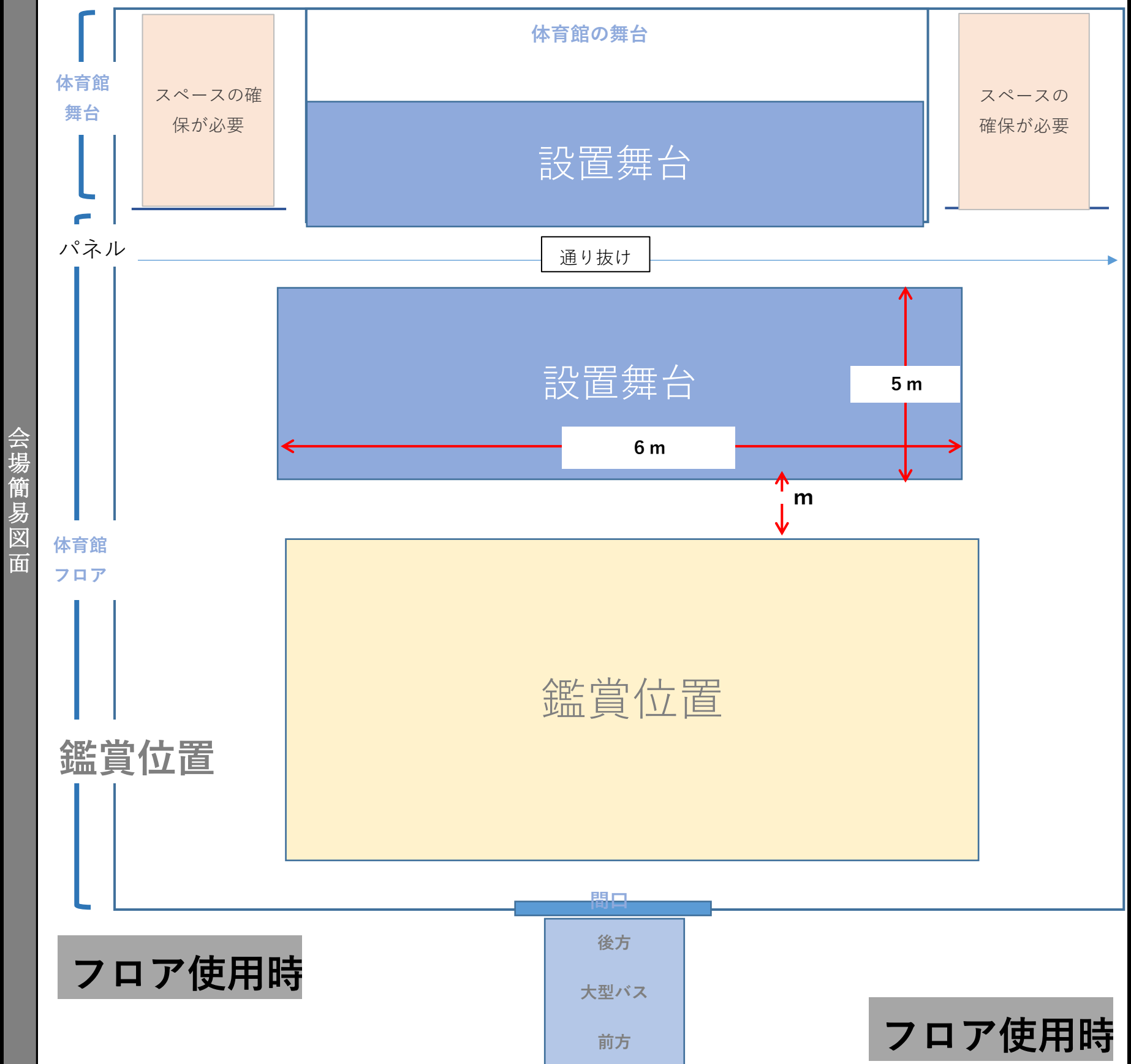
学校からの情報	(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
	会場図面の提出要否		要
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		搬入間口・搬入経路等の写真

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
本公演						
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添	なし
----	----

【公演団体名

公益財団法人 山本能楽堂

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫	<div>【本事業を通じて実現したいこと】</div> <div>1.日本を代表する伝統芸能である能楽の普及と継承。室町時代へとつながる日本人としての誇りの継承を自発的に楽しく学べる事業を行い、現代において日常生活の中であまり接する機会の少ない古典芸能に対する鑑賞能力を養い、将来の芸術家の育成へとつなげ、次代へとユネスコ世界無形遺産である能の魅力を伝えていきたい。</div> <div>2.子ども達が能楽に触れ、実演経験、鑑賞経験をすることで、その基幹をなす日本人としての美意識や価値観を体感し、さらには総合的に日本の美しさを感じることでできる感受性を育み、新たな発想力を身に着けることができるよう促したい。</div> <div>3.子ども達に加え、教育現場にいらっしゃる教員の先生方への伝統芸能への理解を深めていただき、今後の授業に活かして頂きたい。</div> <div>4. 能の中に含まれる道徳や価値観、ものの考え方を通して、他者との共生、コミュニケーション能力を育ませて頂きたい。</div> <div>5.子ども達が感受性の強い幼少期に「本物の芸術」に触れることで、子ども達の心の中に、芸術を鑑賞し、学ぶ楽しさを育んでいきたい。</div> <div>6.事業を継続して実施させて頂く事で、培ったノウハウや経験を広く一般に公開し、学校教育の現場等で役立てていきたい。</div> <div>7.給食を生徒の皆さんと一緒に食べたり、休み時間に子ども達と接する事で、子ども達とのコミュニケーションを深め、ささいな会話の中から、人生について、職業について等、子ども達が自分自身の将来を考えるきっかけを作っていきたい。</div> <div>8.学校の授業で行われている、国語、社会(歴史、地理)、音楽などの授業と連動させ、学校での授業での集大成となるような総合的な授業となるよう取り組んでいきたい。</div> <div>9.地域における民俗行事、風習、言い伝えなどと関連づけ、自分たちの住んでいる場所、地域への愛着を深め、そして想像力を広げ、その範囲を国、地球へと広げていきたい。</div> <div>10. 能はサスティブルな芸能であり、持続可能な社会の実現のためのヒントが多く内包されている。SDGsの目標とも関連づけて、その魅力を伝えていきたい。</div> <div>11. 何よりも子ども達に能・狂言を「面白いな!」と感じて頂き、伝統芸能への興味・関心を引き出し、日本文化を継承していったほしいと切望します。</div>
	<div>【上記の実現に向けて、実施の工夫】</div> <div>1.事前に実施校へ本事業の主旨と目的について伝え、本事業に対する理解を深める。</div> <div>2.ワークショップ実施の1～2週間前にワークショップの内容の確認を行う。</div> <div>3.ワークショップで訪れた際に、必ず打ち合わせの時間をもうける。</div> <div>4.ワークショップ時も、できるだけ生徒と一緒に給食を食べる。(学校側に希望により)</div> <div>5.ワークショップ終了後、フィードバックを行い、問題点や反省点があった場合、本公演で改善できるよう学校側と話し合う。ない場合は、より効果的に事業が実施できるよう、学校側からの希望があれば受け入れる。</div> <div>6.本公演実施の1週間～2週間前に再度本公演に対する確認を行う。</div> <div>7.本公演の実施前に、本公演の概要について確認を行う。</div> <div>8.本公演時も給食を生徒と一緒に食べ、コミュニケーションをはかる。</div> <div>9.本公演終了後、フィードバックを行い、良かった点、悪かった点などとりまとめ、次回の公演に活かす。</div>
事業を適切かつ円滑に実施するための工夫	<div>【学校との連絡調整について】</div> <div>1.学校側とのやりとりは、1人の担当者が最初から最後まで継続して行う。</div> <div>2.学校側とのやりとりは、口頭で行った場合も、すべて書面にして相互確認を行う。</div>
	<div>【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】</div> <div>当財団は、1999年より子供たちへの能楽普及の取り組みを続けており、子供たちが気軽に、日常的に能や日本の伝統芸能を楽しめるよう、5種類の無料アプリを開発し、誰もがダウンロードして楽しめるようにしている。</div> <div>* 当たり前の事であるが、たばこを吸う者、言動が汚い者、マナーの悪い者は、出演者に加えない。本事業に関わる全てのメンバーが大人として子ども達にいつ見られても恥ずかしくない振る舞いをするよう心がけて本事業に取り組ませて頂きたい。</div>
	<div>【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】</div> <div>3D能面や能楽堂の新たなデジタルコンテンツに加え、マルチアングル配信の動画、YouTubeで5分間で様々な演目を楽しめる「能の五分間の動画」など、時代に即した様々なコンテンツを用意している。特に今回上演する「土蜘蛛」は、様々な角度から多彩なコンテンツを用意しており、子供たちの継続的な学びにつながるよう、活用している。</div>

一般区分・特別エリア区分共通			
別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。			
リンク先	No.1	【公演団体名	公益財団法人 山本能楽堂】
学校等における公演実績 特別支援学校における公演実績	<p>(学校等における公演実績)</p> <p>学校等におけるこれまでの公演実績が認められ、「小学社会6年上」(文教出版社)の教科書の表紙や、振り返りシートなどの制作に協力いたしております。</p> <p>これまで、全国の約8万人以上のこどもたちに、能の魅力を伝えてきた実績があります。</p> <p>2025年</p> <p>◇デジタル教科書の制作にも協力</p> <p>ー副教材として学校の先生方にご活用頂いています。</p> <ul style="list-style-type: none">・能についての説明・能楽堂について・能の道具について・狂言について <p>(特別支援学校における公演実績)</p> <p>◇視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、または病弱者(身体虚弱者を含む)の方、それぞれに応じた公演を実施させて頂いてきました。</p> <p>◆特別支援学校の先生のご発案により、史上初の能楽の無料楽器演奏アプリ「OHAYASHIsensei」を開発し、能の音楽の普及につとめてきた。</p> <p>◆特別支援学校での本アプリ活用の事例が全国的に広がりつつあります。</p>		
			

リンク先	No.2	【公演団体名	公益財団法人 山本能楽堂	】
本公演演目	<p>(本公演演目/演目概要)</p> <p>■能「土蜘蛛」 源頼光が病床に臥せっている処へ、典薬の頭(医師)の使いで、胡蝶という女が見舞いに来て、頼光を慰めて帰った後、夜中に僧形の者が訪れ「わが背子が来べき宵なりさがにの くもの振まいかねて知るしも」の古歌を引いて病床に近づくや蜘蛛の糸をくり出して頼光を苦しめる。枕元にある愛刀「膝丸」を抜いて立ち向かい切りつけると、怪僧は蜘蛛の糸をくりかけて行く方知らず失せる。</p> <p>頼光はかけつけた家臣・独武者に蜘蛛退治を命じる。独武者は家衆を従え葛城山に登り、蜘蛛の栖(すみか)を見つけ、多勢とりこめて蜘蛛を切り伏せる。 能の中でも動きの多い場面転換の目まぐるしい能で、視覚的たのしみを満喫させる。 源頼光は大江山の酒吞童子を退治した勇者だが、この土蜘蛛の話も、平安朝での中央の権力と地方の反目する勢力との桔抗摩擦とも受けとられる。</p> <p>＜公演に字幕をつけさせて頂くことも可能です＞ 学校側のご希望があれば、能の上演時に「字幕」をつけさせていただくことが可能です。 「土蜘蛛」は物語もわかりやすく、能の詞章そのまま、意味ははっきりとわからなくても、室町時代から詞章をそのまま聞いて、子ども達に「感じて」頂くアプローチと、「字幕」に室町時代そのままの詞章と現代語訳を掲示し、意味をきちんと把握できるようにするアプローチと2方向が考えられるため、準備をさせて頂き、学校側の希望に応じさせて頂きます。</p> <p>■狂言「柿山伏」 山伏が修行を終えて故郷に帰る途中、のどが乾いてしまい、ふと見あげると見事な柿があることに気づきます。木の下から落とそうと試みますが、中々巧いかなかったのも、木に登って柿を食べていました。ところが、誤って口にしてしまった渋柿を投げ捨てたところ、見廻りに来ていた柿の持ち主に渋柿が当たってしまい、無断で柿を食べていたことに気づかれてしまいます。柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だ、鳶だと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、しまいには鳶は飛ぶもの、と言われてしまい、結局飛んでは見るものの、大怪我をしてしまい悪事がばれてしまいました。</p>			
演目概要				
演目選択理由				
児童・生徒の共演,参加 または体験の形態	<div>   </div> <div> <p>能「土蜘蛛」</p> <p>狂言「柿山伏」</p> </div> <p>＜能「土蜘蛛」のあらすじを5分間のアニメで上演することが可能です。＞ 学校側から希望があれば、能「土蜘蛛」のあらすじを5分間のアニメにまとめたものを、能「土蜘蛛」の上演前、もしくは休み時間にプロジェクターで会場内で投影し、子ども達の理解を深めることができます。事前にデータでお渡しして、能の公演の前日などにご活用頂くことも可能です。</p> <p>◇3Dスキャン能面(小面、般若) 江戸時代に作られた能面の裏も表も自由に手に取るように楽しむことができる。 ・肉眼では見ることのできない、詳細な部分も拡大して閲覧することが可能。 ・能楽師・山本章弘による能面の解説を聞きながら自由に楽しむことができる。</p>			

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.3-①	【公演団体名	公益財団法人 山本能楽堂	】
		【ワークショップのねらい・内容】		
		①観世宗家の許可を得た独自教材やアプリを使い、子ども達が能の謡を体得し、日本語の美しい響き・リズムを学ぶことで、感性やアイデンティティ形成につなげる。		
		②校歌を謡のリズムに変換して練習することで、楽しみながら謡に親しみ、本公演の理解や参加につなげる。		
		③能面・能装束といった本物の工芸品に触れる機会をつくり、日本の伝統工芸への理解を深める。		
		④先生や生徒が能装束の着付けを体験し、日常が非日常に変わる舞台芸術の魅力を実感する。		
		⑤終演後の質疑応答やふりかえりを通じて理解を深め、体験を子ども達の大切な思い出として定着させる。		
		【学校で能の授業を実施させて頂く際の取り組み姿勢について】		
		①能楽は国語・歴史・音楽・美術など学校教育と強く結びつく総合芸術であり、授業内容と連動させることで学習の集大成となる体験を提供したいと思っています。		
		②謡の美しい日本語と独自のリズムを幼少期に体感することで、日本文化への感性・言語感覚・アイデンティティ形成を育んで頂ければと願っております。		
		③現代では伝統芸能に触れる機会が減っており、学校現場で「本物」に触れる機会をつくるのが子ども達の文化的土壌を育てる鍵であると考えます。		
		④能面・装束・楽器などには日本文化の粋が凝縮されており、短時間でも楽しく謡を習得できる独自メソッドを用いて、子ども達が伝統芸能の真髄を体験できるよう指導いたします。		
ワークショップのねらい		⑤教員の先生方ご自身にも 伝統芸能へのご理解を深めて頂き、今後の授業で活かせる知識を得てもらう機会としても重要であると考えています。		
ワークショップの実施形態及び内容		⑥能の物語に含まれる道德観・価値観を通して、共生や他者理解、心の成長につながる学びを提供する。		
その他ワークショップに関する特記事項		⑦幼少期に多様な芸術に触れる経験は、人生を豊かにし、感受性や困難に立ち向かう力を育てる「心の栄養」となればと願っております。		
		⑧全国を巡回する中で地域文化とも結びつけ、子ども達に「自分の地域文化への誇り」と「文化の多様性」への理解を育ませて頂ければと思います。		
①本事業に対する取り組み姿勢		⑨国際社会がボーダレスになる未来に向け、日本人としての心とアイデンティティを育てる基礎となる体験を届けたいと思っています。		
		⑩能は数百年にわたり災害や疫病を乗り越えて継承されてきたサステナブルな芸能であり、「物を大切にする心」など持続可能な価値観も子ども達に伝えていきたい。		
		⑪子ども達が「生の芸術」を体験する機会は演者にとっても貴重であり、交流を重ねることで教育普及のノウハウが蓄積され、次世代への継承へとつなげて委託ことができます。		
		⑫何より子供たちの笑顔に私共も大きなパワーと元気を頂き、伝統芸能の継承に携わらせて頂いている能楽師自身の、次代への継承のモチベーションにつなげていくことができます。		